第５回富山県地域交通活性化推進会議　議事要旨

１　日時　　令和２年１月９日（木）午後１時 30 分～３時 00 分

２　場所　　富山県庁４階　大ホール

３　出席者

委　員：石井座長、中川(大)委員、長尾委員、髙木委員、
金岡委員代理（矢坂専務理事）、大路委員代理（鹿野室長）、
中田委員、日吉委員、水上委員、村上委員、中川(修)委員、鈴木委員、
高松委員、清澤委員、久保田委員、大井委員、島田委員、白井委員、
千葉委員、山本委員、石橋委員、中村委員、村田委員代理（上田課長）、
酒井委員

事務局：石井知事、猪俣観光・交通振興局長
砂原観光・交通振興局次長、清水総合交通政策室次長　他

４　議事内容

資料に基づき事務局から説明

(1)「富山県地域交通ビジョン」の取組みの進捗状況と課題について
(2) バス情報提供の取組みについて
(3) とやまロケーションシステム整備の取組みについて
(4) バス利用促進の取組み実績について

５　主な意見等

（座長）

富山県では全国に先駆けてさまざまな地域交通の政策を展開している。その第 1 弾はこの推進会議でも議論したバスの利用促進に向けた県補助制度の見直しである。これは頑張っている事業者をさまざまな形で応援することであり、全国からも注目されている。また、利便性の向上について、このような推進会議を設け、学識者、経済団体、交通事業者、利用者が一堂に会し議論することは、他の都道府県の中では少ないと国土交通省から聞いている。

そのような中で、富山県の強みをこれからも大きく発展し、伸ばしていくことができるかは、委員の方々とわれわれの今後の施策の展開にかかっていると思う。地域公共交通の確保・存続は、どの地域でも大変重い課題であるが、皆様と一緒になって、富山県の公共交通をいかに全国のモデルケースとして展開できるかを考えて推進してまいりたい。

地域交通ビジョンができ、今後、目標や具体的な取組みの見直し、モニタリングが必要になってくると思うので、委員の方々それぞれの専門分野からの意見を聴いて、事務局と私の方で最終的な取りまとめに向けて、まい進してまいりたい。

（委員）
平成 30 年度の観光入込客数について、立山黒部アルペンルートが 98 万人ということだが、将来的には 300 万人ぐらいになるのではないかと想定している。今後、新幹線を上手く利用しながら、京都・大阪からの誘客も図り、世界で最も美しい湾クラブ加盟の富山湾を合わせて、立山黒部アルペンルートの観光客入込数の増加に力を入れていただきたい。

（知事）
立山黒部アルペンルートを訪れる外国人旅行客は 10 年で 2 万 3000 人が 26 万人に増えているが、国内は人口減少の影響もあり伸び悩んでいる。また、新幹線が(10 月に)13 日間運休したこともあり、入込客数は 100 万人手前となっている。300 万人とまでは言えないが、一つのネックになっていた立山ケーブルカーについて、ロープウェー化構想を進めており、これにより輸送能力が 2 倍になりキャパシティとしては十分可能性がある。立山黒部アルペンルートの山の美しさと景観、それと富山湾の海越しの立山連峰をセットで誘客に努力をしてまいりたい。

（委員）
域内交通の問題点はバス運転手の確保であり、現在、普通二種免許で運転できる小型車両の導入や、小型車両のドライバー・女性ドライバーの確保を進めている。一方、観光については、高速バスが非常に大きなウェイトを占めており、名古屋や高山を結ぶ路線が好調に推移している。インバウンドのお客様も増えているが、これは昇龍道や三ッ星ルートといった企画切符の効果が大きい。鉄道については、3 月 21 日に市内電車が南北接続されるので、人の流れが変わり、利用客数が増加することを期待している。
今後の取組みとして、他の交通機関との連携が非常に大事になるため、全国で始まる MaaS についての検討を進めていきたい。

（委員）
あいの風とやま鉄道の今年度(4-10 月)の利用者数は、昨年度と比較し 1.8%増加している。利用者が増加した駅は、石動駅、高岡やぶなみ駅、それから富山駅、東富山駅といったところで、これらの駅は駅舎の改修や駅周辺の整備が進んだ場所である。現在、関係自治体と連携し、新駅整備や駅の改札追加、駅のバリアフリー化などを進めており、引き続き利用者を増やしていきたい。
また、次年度、券売機の IC カード対応化を行う計画であり、利便性向上も図っていくこととしている。

（委員）

10 月に台風の影響で新幹線が 2 週間運休となりご迷惑をお掛けした。車両が足りない中での運用であるが、懸念されていた年末年始の多客輸送については、JR 東日本にもご尽力いただき臨時列車を設定し、ほぼ対前年並みのお客様にご利用いただくことができた。今後は、新幹線開業 5 周年キャンペーンを関係自治体とともに盛り上げ、観光客の呼び込みに努めたい。また、高山線、城端線、氷見線について、関係自治体とともに持続可能性を高める取組みを進めたい。

（委員）

黒部峡谷鉄道の今年度(4-11 月)の利用者数は、前年度に比べ約 2.2%減少している。夏以降の韓国からのお客様の減少が一因だが、いろいろ事情があり、たまたま来られていないだけだと思うので、引き続き韓国語をはじめ多言語化を充実していく必要があると考えている。また、他の交通事業者や地域の観光事業者と連携し、お客様の利便性を上げる取組みを進めたい。

(委員)

富山県は近年、公共交通の利用者数が伸びているが、全国的に見ると上がるところと下がるところが二分化されている。また、地方で上がっているところはなかなか無い。特に着目すべき点は、平成 15 年と比べて現在の方がずっと伸びている点であり、全国的には（平成 15 年に比べ）激減しているところの方が多い。これは単に新幹線の開業効果だけではなく、以前から公共交通に対し取組んできた成果だと思う。

また、バスがどこを走っているかが分かるバスロケーションシステムは、路線・時刻表等のデータが全て整備されてないと成り立たないが、そのデータを全県的に整備できているのは富山県のほかに、群馬県と佐賀県しかない。その他の都道府県は現在データを整備している状況であり、かなり突出している。現在はバスだけだが、海外ではバス・鉄道の走っている場所がスマートフォンで分かるのは当たり前であり、今後、鉄道も加えていただきたい。

そのほかに、昨年 11 月末から 12 月にかけて、全国から研究者が集まる研究発表会向けに、スマホで見せれば県内の全ての公共交通に乗れる全国初の切符を、本日会議に出席している交通事業者のみなさんに協力してもらい、発行した。これは学会の会員限定だったが、将来に向けて他のコンベンション等で使えるようにしていきたい。そのようにすれば、会議等で富山を訪れた方に全県を回っていただける方向に繋がると思う。

また、バスの補助事業については、先進的な補助制度になっていると思うので、今後も続けていくと良いと思う。

（委員）
交通ビジョンは着実に進んでいると思うが、あと一息。金沢駅での新幹線からの乗り換え時間の短縮や、新高岡駅での新幹線から城端線への乗継ぎが 30 分から 15 分以内になるよう工夫いただきたい。こういう一つ一つの工夫がもっとこのビジョンを良くする。また、富山駅での新幹線から高山線に接続する本数が少ないため、高山行きのバスを「かがやき」に合わせ、JR 高山線のない時間帯に走らせていただきたい。
また、神岡では KAGRA 等への投資が行われており、技術者も来訪するため、富山空港や富山駅から神岡へのアクセスも実験してほしい。

（知事）
委員のお話にあったように、富山駅の南北一体化事業の効果で利便性が高まり乗客も増えると思うので、観光振興や地域活性化に繋げていきたい。また、富山―東富山間の新駅も着工にこぎ着けたので、引き続き努力していく。そして、JR 西日本や黒部峡谷鉄道とも連携しながら観光振興に努めていきたい。
また、バスロケーションシステムについて、今後、鉄軌道も含めるよう提案があったが、そのような方向も考えたい。鉄軌道はよほどのことでない限り時間どおりに運行されるため、まずはバスに導入した。
研究発表会向けの電子チケット（全県を周遊できる切符）の取組みは大変意義のあることだった。今後本格的に導入するとなると、各事業者の事務負担や料金設定、収入配分の課題がいろいろあるが、今回の実証実験の結果を参考にしていきたい。
城端線と新幹線の乗り継ぎについては、悩ましい課題であるが、富山一高山間のバスの出発時間を、高山線のダイヤが空白になっているところに戦略的に配置するなど検討したい。また、あいの風とやま鉄道と新幹線の接続は、あいの風とやま鉄道に汗をかいてもらい随分改善されたと思うが、また努力をしていきたい。そして、神岡へのアクセスについて、富山空港や富山駅からのアクセスは民間の方々とも連携しながら改善の努力をしていきたい。

（委員）
いろいろな取組みが成果を上げているところだが、３点意見を言いたい。
まず１点目に、金沢で「まちバス」という利便性の高いバスがあるが、富山でも 10 分か 15 分間隔で主要なバス停を周遊するようなバスが実現すると、県外客の利便性が高まると思う。
２点目は、乗降客数をいかに増やすかという点で、いろいろな施策を行っているが、成功した中から良い事例を、他の自治体や交通事業者に知らせていく方策があると良い。
３点目は、先日バスが来ないときに案内所へ電話をしたが、5 分ほど待たされて反応が無かった。電話を切った後にバスロケーションシステムを見てバスの遅れが分かったのだが、案内所の窓口でも、スピーディーに対応できるよう教育をしてほしい。

（委員）
昨年 5 月 1 日に令和改元で、当社は「万葉」という名前を付けた全国唯一の会社ということで、万葉令和号（ラッピング電車）を走らせたところ、多くのマスコミに取り上げてもらい、富山を全国に発信できたと思う。また、ドラえもんトラムについては、台湾をはじめとしたインバウンドのお客様に好評いただいている。この秋には内装を一新し、キャラクターを増やした。
利用者数について、中心市街地の商業施設がなくなったり、消費税の影響や台風の影響により 10~12 月の第 3 四半期は落ち込みがあった。
こういった中でも、安心、安全、安定的な運行に努めていきたい。

（委員）
今年の 3 月 21 日に富山駅高架下で富山ライトレール線と市内電車が直通化し、低廉な均一料金で岩瀬浜から南富山や富山大学まで行くことができるようになるので、かなり利用客が増えると予想している。（南北接続後も）運行頻度は維持しながら、その中でいろいろなサービスを追加できれば良いと思う。
また、富山ライトレールの 10 月の利用客は消費税の関係で数%落ちたが、11 月には平年並みに戻った。今後の天候次第だが、昨年度並みの利用客数を確保できるのではないかと考えている。

（委員）
昨年、バスの運転手の要員不足という問題に直面して、県・市町村の理解を得ながら、12 月までに十数行路を削減した。補助金を得ながら生活路線の維持確保に懸命に努力してきたが、運転手が足りないためやむを得ず削減に至った。
それ以降は、多少ながら運転手を確保しており、来年度は観光路線や高速バスにも力を注ぎ、収支改善に努めていきたい。

（委員）
立山黒部アルペンルートの入込客数を 300 万人に、という大きな話があったが、実績として平成 3 年と平成 6 年の 150 万人が過去最高で、平成 23 年以降は 100 万人手前で足踏みをしている。傾向として春先は非常にお客様が増えているが、夏場や紅葉期のお客様を大きく減らしている。そのため、夏場の盛り返しと、紅葉期の商品づくりに取り組んでいる。
また、最盛期にはケーブルカーの定員も柔軟に対応してもらえたが、現在 1 両 120 人の定員に対し、90 人未満で運行しなければクレームが出てくる。120 人乗りの規格に対し 90 人が限界という現実もあり、300 万人というのは施設的にも高いハードルである。知事が話したロープウェー化の構想は、その問題をクリアする 1 つの手段であるが、１路線だけ定員が増えても全体のお客様を増やすことは不可能である。そのため、現在、関西電力と協力し、2021 年 4 月から予約システムの更新を計画しており、「待たされた」「予約できない」といったクレームについては、ある程度対処できると考えている。
300 万人は無理だが、シーズンでの平準化を図りながら、お客様を増やすべく対処していくので、少し長い目でみてもらいたい。

（委員）
バスの運転手不足の話が出ているが、現在タクシー業界においても運転手が不足しており、各社保有車両の 1/3 くらいは車庫にいる。そういった中でも、タクシーは究極の公共交通機関ということで、自治体と共同でデマンド乗合タクシーを運行するなど、地域交通の一翼を担うべく日夜努力している。
また、高齢者の運転免許返納が進み、平成 22 年から返納割引を実施しており、発足当時は年間 1,000 件程度であったが、現在では毎年増加し、年間 16,000 件を超える状況になっている。この割引は、全て事業者負担で行っているが、やはり行政からの補助があれば、もう少し進んでいくのではないかと思う。
立山観光について、高齢者や足腰の悪い方々は、通常ルートで行くと時間が掛かり苦労されている。観光客数の増加のためにも、全車両ではなく環境にやさしい車両やジャパンタクシーやジャンボタクシーといった車両限定でも良いので乗り入れできるようにし、需要に応えていきたいと思っているので、ご配慮いただきたい。

（委員）
毎年様々な調査事業を行っているが、その一つとして新幹線開業後から富山駅の南口の実態調査を行っている。新幹線開業前の南口は、バスとタクシーが別々のロータリーを回っていたが、新幹線開業後は共用となり、ロータリーや乗降場所で事故の可能性があるといった問題点を調査している。別の機会に県へもお願いしているが、安全な乗降場、もう少し余裕のある乗降場を作ってほしい。そして、南口の身体障がい者用のタクシー乗り場は、市内電車の線路を渡った西側区域にあり、県庁所在地の玄関口としては稀な乗り場となっている。このようなことも含め、バリアフリーな乗り場の確保、安全な動線の確保をしていただきたい。
また、3 月 21 日に南北一体の軌道線が繋がると、富山駅前の信号が変化し、渋滞も発生すると思われる。現在の地下道を広くするなど、もっと安全に通行できるよう南口と北口の整備をお願いしたい。

（委員）
着実に公共交通の乗降者が増え、利用促進の取組みが活発にされているのではないかと感じる。通勤で高山線を利用するが、朝夕は外国人の方を多く見かける。富山から高山へ、高山から富山へとインバウンドの観光客が相当利用されている。最近少しずつ車内放送の外国語対応がされるようになっているが、不十分だと感じる。また、本数が少ない、1 両編成であるなど寂しい限りなので、乗って楽しい高山線にしていただきたい。

（委員）
　前回の会議にて、万葉線でサイクルトラムの話があったが、その結果も聞きたい。
　また、先ほど「観光客の方にも楽しい電車」という話があったが、子供にも楽しい電車をお願いしたい。以前、外国で1両が子供の遊び場になっている長距離電車に乗ったが、そこではお父さんが子供に本を読んで聞かせたり、電話ごっこができるような遊び場が作られていた。電車に絵が描いてあったり、車両ごとに違ったマークがついていたり、また子供が喜ぶような番号がついているなど、簡単なことでも良いので、子供たちが乗りたくなるような電車ができたら良いと思う。そうすれば、高校生や大人になったときに公共交通を使う人口が増えていくのではないかと思う。
　また、バスロケーションシステムについて、高齢者には使えない人も多くいるため、どこへ聞けばよいのか、といった使いやすさにも力を入れて欲しい。また、システムがあること自体を知らない人もいるため、普段、自動車を利用する人のことも考えて広報活動を行えば良いのではないかと思う。

（委員）
　サイクルトラムについて、利用者数はあまり多くなかったため、来年度に向けてホームページ等を工夫していきたい。また、子供も楽しめる電車ということで、引き続き、ドラえもんトラムを中心にいろいろな車両を考えていきたい。

（事務局）
　バスロケーションシステムについて、普段車を利用される方々への広報が行き届いていない点は、今後、力を入れる点だと考えている。
　使い方については、県・市町村の担当に電話をいただくことで、説明することができる。今後、出前講座といったことも考えてまいりたい。